

Web カメラを使ったコミュニケーションの工夫

埼玉県立戸田翔陽高等学校 岩本 太一

コミュニケーションは、「言語的要素」と「非言語的要素」から構成され、円滑なコミュニケーションを行うには「非言語的要素」の方が重要である。しかし携帯電話などのデジタルのコミュニケーションツールを使う際には「非言語的要素」が伝わりにくい性質を持つので、それら削られた要素を意識的に補完しなければならない。今回の発表は、Web カメラを使ってこの点を気づかせる授業の実践報告である。

1. はじめに

この実践報告は私が所属している埼玉県高等学校情報教育研究会の研究委員として、平成23年度の会誌に掲載した研究論文の一部である。その年の研究委員のテーマは、コミュニケーション能力の向上を目的とした授業の工夫を授業実践するものだった。そこで、コミュニケーションの成立を構成する「言語的要素」と「非言語的要素」について生徒に気付かせる授業としてこの題材を設定した。

以前から、人間関係が発達過程の生徒間ではコミュニケーションがうまく成立しないことによるトラブルが少なからず発生していた。そしてこの問題は、携帯電話やインターネット、メールなど情報通信機器を利用した新しいコミュニケーションツールの登場によって、さらに深刻さを増しているように感じている。これらの新しいツールの特徴・特性を正しく理解せず、うまく使いこなせていない現状があると考える。

この題材では、円滑なコミュニケーションを成立させるには「非言語的要素」が重要であることを理解させるのが目的である。そのために、Web カメラを使ったビデオチャットの実習を行い、対面コミュニケーションと Web カメラを介したもので、いくつかの状況を比較する。それらの比較の中で、コミュニケーションが成り立つかどうかという点を注目させることによって、情報通信機器を使ってコミュニケーションする際の注意点と、コミュニケーションに重要な要素に気づかせ、対面でのコミュニケーションを円滑に成立させるための工夫に応用させる。

2. 授業提案

ア コミュニケーションには“言語的要素”・“非言語的要素”があることを学ぶ。

イ 円滑なコミュニケーションには“非言語的要素”が重要であることを学ぶ。

対面でのコミュニケーションと Web カメラを介したコミュニケーションとの違いに気づかせる。

このとき、コミュニケーションをする状況の設定として「1対1」、「1対多」の2つの状況に分けて、Web カメラを介したコミュニケーションを行ってみる。この2つの状況を通して、円滑なコミュニケーションを行うには、

ア 言語的 …… 言葉・文字など

イ 非言語的 …… 視線・うなずきなど

という2つの要素があり、円滑なコミュニケーションには“非言語的要素”が重要で、情報通信機器を使ったコミュニケーションではそれらの非言語的要素の情報が制限されることが多いので、言語的要素の情報でそれらを補うよう工夫・注意する必要があることを気づかせる。

3. 実践報告

3.1 クラスの概要

授業実践を行ったクラスは、3年次の必修教科目情報A履修者34名(男:女 13:21)であり、どの年次も女子が2/3程度を占める。

実践校の特徴として、小・中学校時の不登校経験者の学び直しの場としての性格がある。事実在籍生徒の半数以上は不登校経験者であり、そのため、対人コミュニケーションを苦手とする生徒も少なからずいる。進路としては、進学希望者・就職希望者が半々である。進学希望先としても、大学・専門学校が半々の状況で、大学は推薦・AO入試がほとんどである。

3.2 授業のねらい

コミュニケーションは、「言語的要素」と「非言語的要素」から構成され、円滑なコミュニケーションを行うには「非言語的要素」の方が重要であることに気付かせる。そして、携帯電話などのデジタルのコミュニケーションツールを使う際には、「非言語的要素」が伝わりにくい性質を持つので、それら削られた要素を意識的に補完しなければならないことを、発信者・受信者ともに意識しなければならないことを気付かせる。

3.3 教材

- ア ワークシート (プリント)
- イ Skype (ソフトウェア)
- ウ Web カメラ
- エ ヘッドセット
- オ 学習指導案

Web カメラは 120 万画素 HD 画質で、2 千円程度で購入した。画質的にはもっと低品質のものでも十分かと感じる。

3.4 授業の流れ

ア 事前準備

本来は、2 時間分の授業として考えていたが、実施時期の関係で 1 時間分の授業として行った。そのため、教員側で事前準備する項目が多くなった。実施予定に時間があれば、これら事前準備を授業として行うこともできると考える。

- (ア) Skype のインストール
- (イ) Web カメラの接続・ドライバインストール
- (ウ) Skype アカウントの作成 (40 人分)
- (エ) Skype のコンタクトメンバーの追加
- (オ) Skype アカウントを書いた紙

実際は、項目アとイを同時に行い、40 台の PC に設定するのに 1 時間程度、40 人分のアカウント作成に 30 分程度かかった。そして、項目エは、Skype で通話するには事前にお互いのログイン名を”コンタクトメンバー”として登録しておく必要があるための作業である。今回は、5 人一組 6 グループとしてコンタクトメンバーを作成した。作業時間は 30 分程度だった。また、項目オは、生徒に Skype をログインさせるときの分かりやすさのためである。

イ 授業 (1 時間分)

- (ア) 生徒に馴染みのある携帯電話などのコミュニケーションツールについて発問
- (イ) Skype やヘッドセット等の機器の説明
- (ウ) グループ分け

授業準備の項目 (オ) で用意した紙を生徒に配り、3 人 1 グループにして自分がどのグループに所属しているのかを明確にする。

(エ) 3 人でのビデオ通話

このとき、どのようなしぐさをしているか、普段の対面の会話と異なる点はないか注目しながら、ビデオ通話させる。

(オ) まとめ

コミュニケーションの言語的要素と非言語的要素について、プリントにまとめる。

3.5 授業の振り返り

ア 生徒の感想

- ・楽しかった。
 - ・初めて使った。もっと使ってみたい。
- という感想が多いなか、
- ・隣の人とだったから、話すことがなかったです。
 - ・楽しかったけど、何か少し恥ずかしかった。
 - ・メールや電話より、相手のしぐさなどが分かった。
 - ・ちょっと普通の会話と同じようにするには、コツが必要だなと思いました。
 - ・顔が見えるせいか、話しづらかった。
- という感想もあった。特に、最後の「顔が見える」のに「話しづらい」という矛盾した感想が今の生徒のコミュニケーションについての現状を表しているように感じた。

イ 有効だった点

- ・Skype や Web カメラといった普段使ったことがないソフトウェアや機器を使ったため、生徒の参加意欲を高めることができた。
- ・コミュニケーションには、言葉にならない「非言語的要素」もあるということを気付かせた。

ウ 改善を必要とする点

項目アの生徒の感想にもあったように、グループ割りによっては隣の人と Skype を通じて話すという状況が生まれてしまうので、工夫が必要である。また、2 時間分を想定しているが、若干実施時間が厳しいようであった。アカウント作成の際にパスワードについての話や、進学・就職の面接の際の姿勢などの内容を織り交ぜて、やや長期的な授業とした方が、時間にゆとりができると感じた。

4. おわりに

現在、Twitter や facebook など情報通信機器を利用したコミュニケーション手段は多様化し続けている。しかしどれも「言語的要素」に依存したコミュニケーション方法が主流であると感じる。このような現状の中で、コミュニケーションを構成する「言語的要素」と、とりわけ「非言語的要素」の重要性について理解を深めておくことは必要な点ではないかと考える。今回は、Skype と Web カメラというその時点での生徒にとって目新しいツールを使ったが今後も新しいツール・新しいアプローチで授業展開を考えていければと考える。